

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

＊ 1983年版東京天文台パンフレット

アーカイブ新聞第668号(2013年4月9日)に「山下芳子氏からの資料(野辺山宇宙電波観測所、光電子午環建設のころ)」という記事を書いた。山下芳子氏から2013年4月8日に届いた封筒の中にあったもののリストの、

3)「東京大学東京天文台パンフレット1983年版:表紙がエッシェルスペクトル」である。

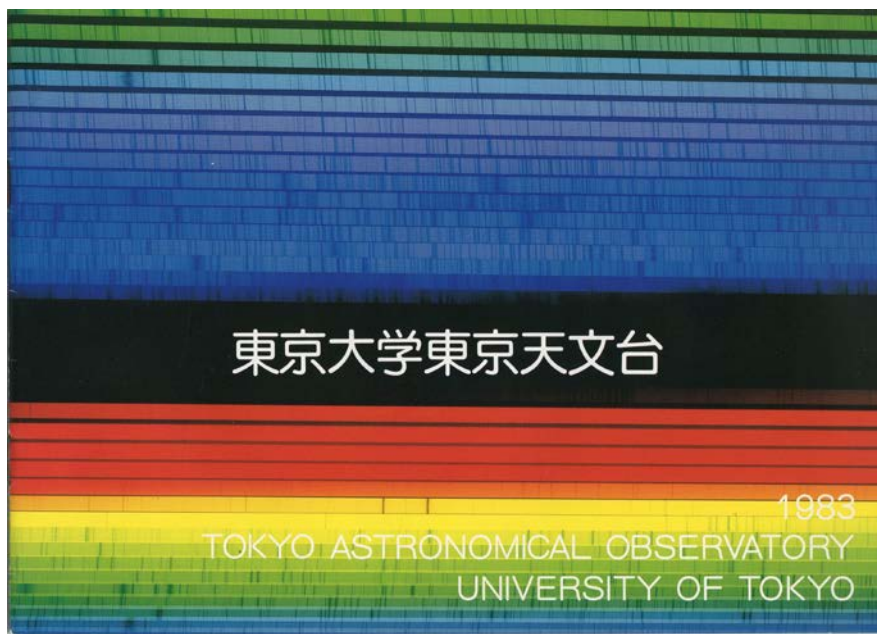


写真1 美しい表紙(太陽の高分散エッシェルスペクトル:乗鞍コロナ観測所)

目次	沿革
沿革..... 1	東京天文台は明治11年(1878年)に東京大学理学部の観象台として本郷に於て発足した。明治15年(1882年)に気象台を分離して天象台と改称し、更に明治21年(1888年)に旧内務省及び海軍省の天文関係の業務を統合して東京天文台と改称し麻布飯倉に移転した。大正10年(1921年)に天文台官制が制定され理学部付属から大学附置となり、大正13年(1924年)に現在の三鷹の地に移転した。終戦の年、昭和20年(1945年)には本館の焼失で貴重な記録や研究機器を失ったが、戦後急速に復活して戦前まさる研究活動を行うようになった。
現況..... 2	昭和23年(1948年)には三鷹国際観測所を統合、昭和24年(1949年)には国立学校設置法の公布により改めて東京大学の附置研究所となり、ついで昭和28年(1953年)には新制大学院の発足により大学院教育に参加し、理学系研究科の天文学課程教育をも担当することとなった。他方、観測施設の拡充計画により昭和24年(1949年)には乗鞍コロナ観測所、昭和35年(1960年)には岡山天体物理観測所、昭和37年(1962年)には堂平観測所、昭和40年(1965年)には人工衛星国内計算施設、昭和45年(1970年)には野辺山太陽電波観測所、昭和49年(1974年)には木曾観測所、昭和53年(1978年)には太陽活動世界資料解析センター並びに野辺山宇宙電波観測所がそれぞれ開設設置された。
三鷹構内地図・施設分布図..... 3	
三鷹の諸施設..... 4~8	
乗鞍コロナ観測所..... 9	
堂平観測所..... 10	
岡山天体物理観測所..... 11	
木曾観測所..... 12	
野辺山太陽電波観測所..... 13	
野辺山宇宙電波観測所..... 14	
施設一覧..... 裏表紙	
位置(三鷹PZT)	
東経: $9^{\text{h}}18^{\text{m}}09^{\text{s}}.9333$	
— $139^{\circ}32'29''.000$	
北緯: $35^{\circ}40'20''.747$	

写真2 2ページ目には、東京天文台の沿革

現況

東京天文台は11研究部（天文時部、子午線部、天体掃索部、人工天体運動部、太陽電波部、太陽物理部、測光部、分光部、恒星分類部、銀河系部、宇宙電波部）2室（天文計算室、図書室）8施設（乗鞍コロナ観測所、岡山天体物理観測所、堂平観測所、木曾観測所、野辺山太陽電波観測所、野辺山宇宙電波観測所、太陽活動世界資料センター、人工衛星国内計算施設）と事務部とから成り、位置天文学、天体物理学並びに電波天文学等の研究を行うとともに暦書の編成、中央標準時の決定及び現示等の業務を行っている。

Tokyo Astronomical Observatory which was founded in 1878 has been a research institute of the University of Tokyo since 1921. It was moved to Mitaka from Azabu, Tokyo, in 1924. It has six branch observatories outside of Tokyo; namely, Norikura Solar Observatory with 25 and 10cm coronagraphs and K-coronameter, Okayama Astrophysical Observatory with 188 and 91cm reflecting telescopes and 65cm solar telescope, Dodaira Observatory with 91cm reflecting telescope, 50cm Schmidt-type telescope and lunar laser ranging instruments, Kiso Observatory with 105cm Schmidt-type telescope, Nobeyama Solar Radio Observatory with 160MHz and 17GHz solar radio interferometers, and Nobeyama Cosmic Radio Observatory with 45m high precision radio telescope and five 10m-element cosmic radio interferometer.

At Mitaka, there are observing facilities, laboratories, and office buildings, and astronomical researches in various fields such as celestial mechanics, rotation of the earth, meridian astronomy, solar system astronomy, solar physics, stellar photometry, stellar physics, galactic and stellar astronomy, and radio astronomy, are carried out both on observational and theoretical sides. Some space-oriented observations are also performed in collaboration with the Institute of Space and Astronautical Science.

写真3 東京天文台の現況が日本語と英文で書かれている。英文の解説は珍しい



写真4 東京天文台の施設分布図

この三鷹の構内施設配置図は、官舎の区画配置が、官舎が建っていない区画を含め正確に書かれている珍しいものである。

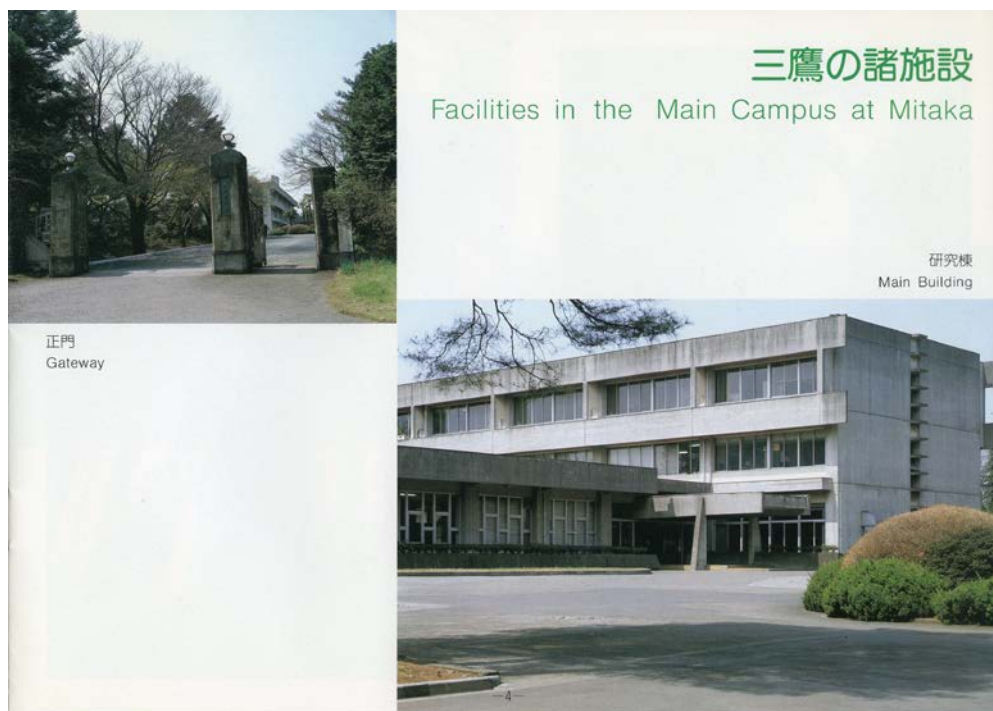


写真5 東京天文台正門と管理等及び北研究棟



写真6 65 cm屈折望遠鏡 (左) 自動光電子午環(右)

65 cm望遠鏡の写真にはもっといい写真があったと思われるが・・・、自動光電子午環のピアは断熱材としてコルクが張られた状態であるが、後にステンレスで覆われた。

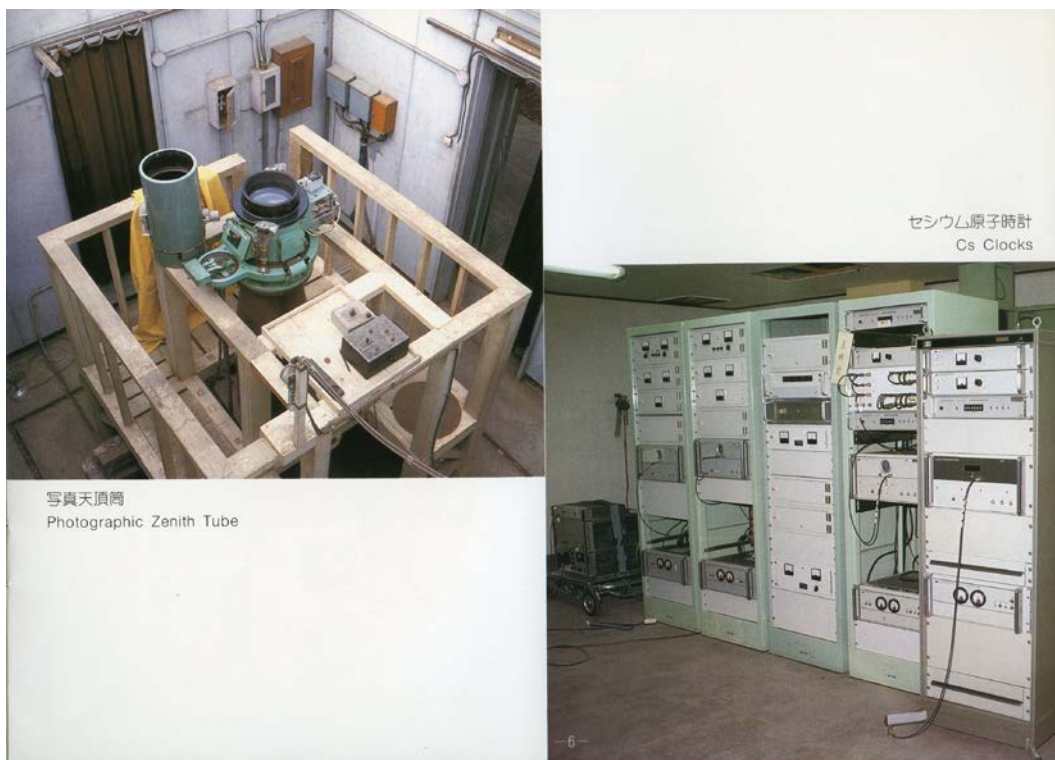


写真7 日本の時刻を決めていた PZT(左)、保時用セシウム原子時計(右)



写真8 人工衛星国内計算施設と言われていたころの電子計算機

写真7、8のこれらの施設は2016年の現在は既になく、PZT（写真天頂筒）の建物は取り壊され、望遠鏡本体は天文機器資料館に展示されている。

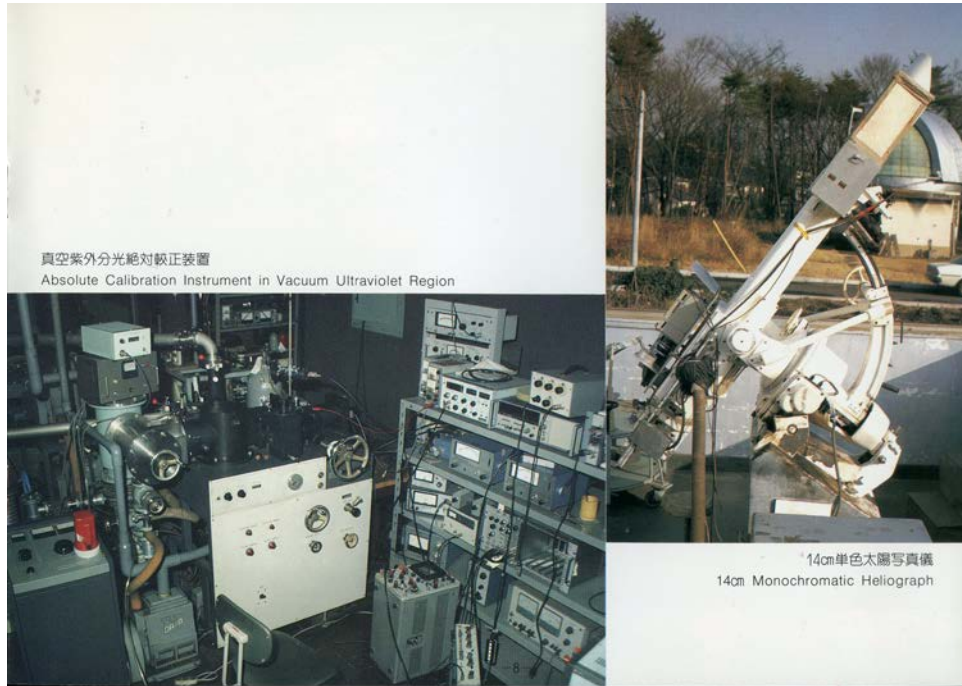


写真9 真空紫外分光絶対較正装置(左) 14 cm単色太陽写真儀 (右)



写真10 25 cmクーデ型コロナグラフ (左) 乗鞍コロナ観測所 (右)

写真9、10の施設もすでに役目を終え、真空紫外分光器はわずかにその姿をとどめているのみで、14 cm太陽単色写真儀は、一時は廃棄されていたが2008年に発足したアーカイブ室の手で回収され、天文機器資料館に展示されている。

また、乗鞍コロナ観測所も 2010 年には閉所され、25 cmクーデ型コロナグラフは、やはりアーカイブ室の手で復元可能な形で解体され、天文機器資料館に保管されている。

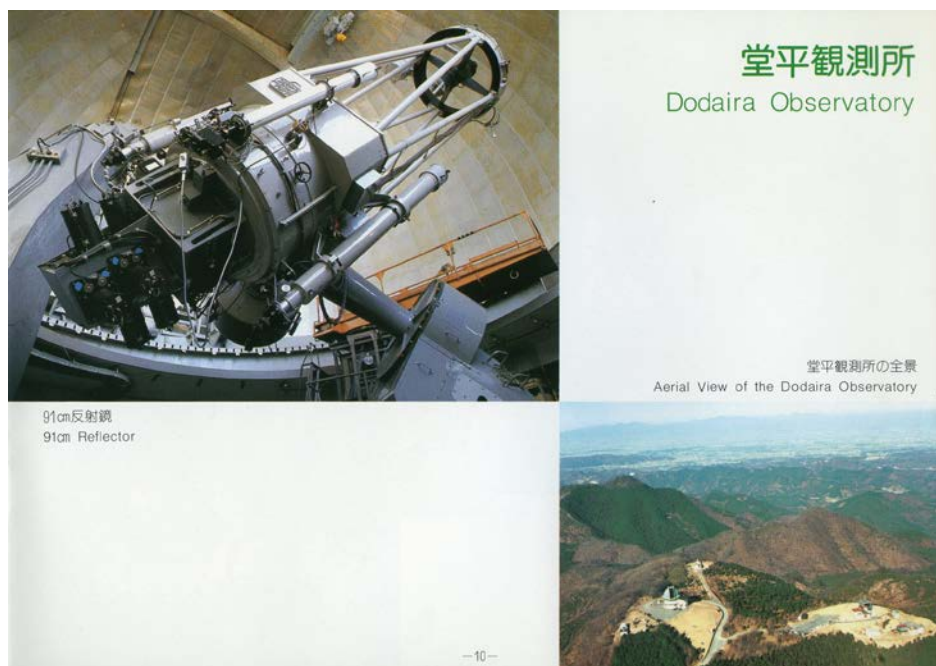


写真 11 2000 年に閉所された堂平観測所と 91 cm 反射望遠鏡

堂平観測所の 91 cm 望遠鏡は、岡山天体物理観測所に置かれるはずであったが、三鷹から近いところに置こうと埼玉県に置かれた望遠鏡であった。

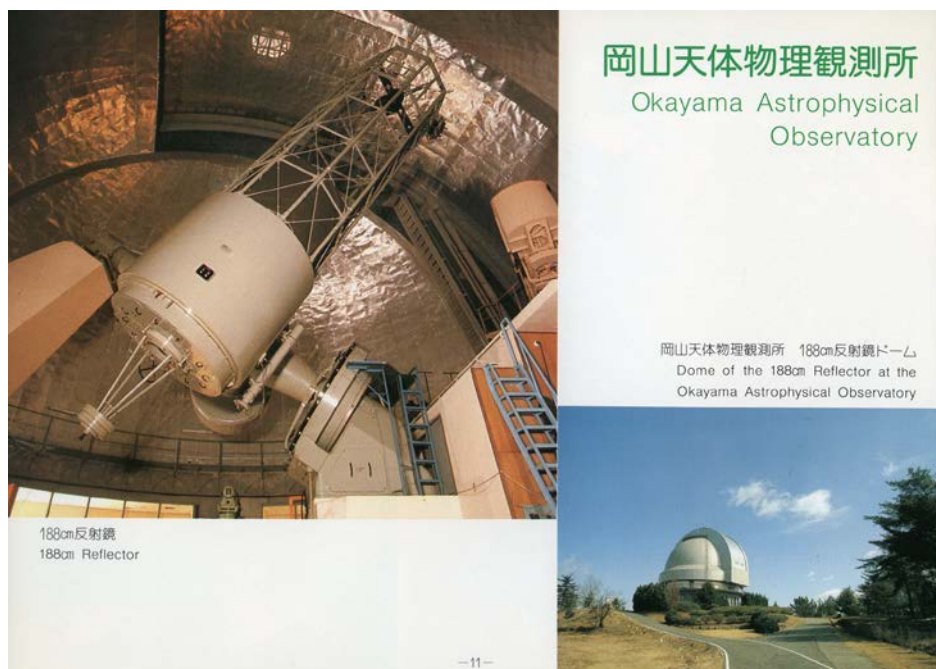


写真 12 1960 年に開所した岡山天体物理観測所と 188 cm 反射望遠鏡

岡山天体物理観測所は、建設当時は世界で 7 番目の大きさの望遠鏡であり、やっと世界に伍して観測天文学ができると期待された望遠鏡であった。

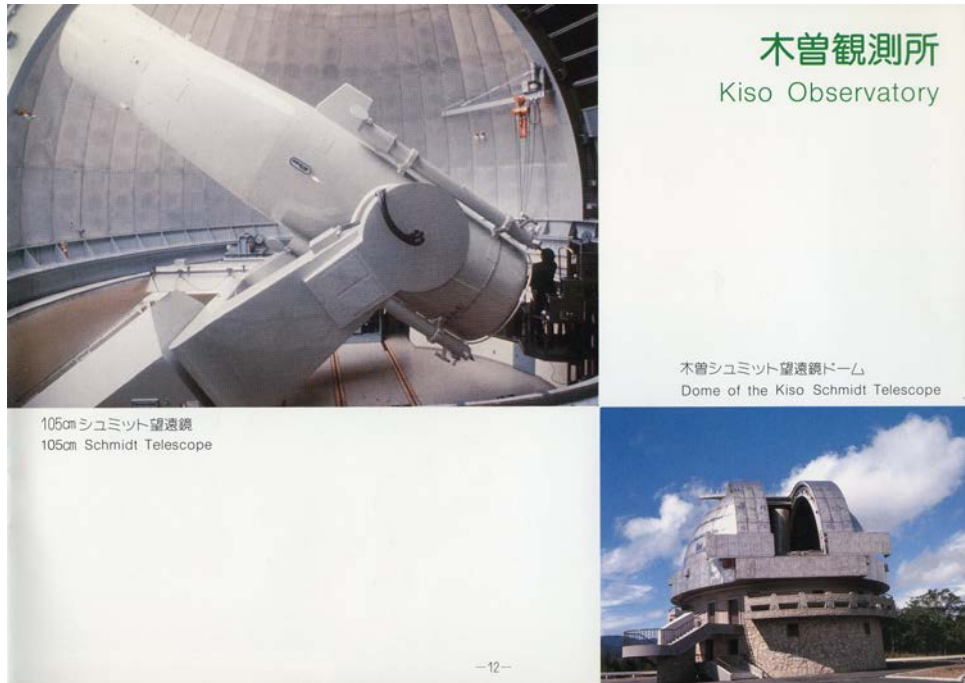


写真 13 105 cmシュミット望遠鏡と木曾観測所

1974年に開設された105 cmシュミット望遠鏡を擁した木曾観測所は、1988年国立天文台発足時に東京大学理学部に移管された。



写真 14 野辺山太陽電波観測所(左) 野辺山宇宙電波観測所(右)

野辺山太陽電波観測所は 160MHz 太陽電波干渉計が完成し 1969 年に発足し、数々の成果を上げ、1989 年には 160MHz 干渉計観測を終え、1992 年には電波ヘリオグラフ (17GHz) の観測が始まったが、2015 年太陽電波観測所は閉所された

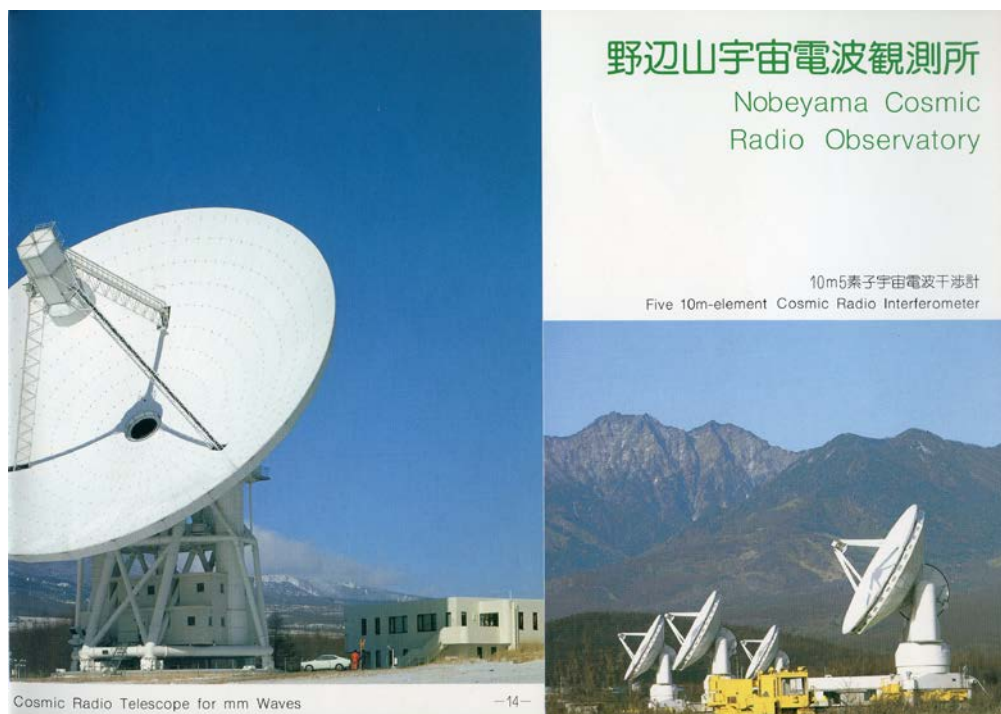


写真 15 宇宙電波観測所の 45m ミリ波電波望遠鏡(左) 10m6 素子電波干渉計
野辺山宇宙電波観測所は、1982 年 3 月に開所し、星間分子を多数発見するなど大きな成果を上げてきた。写真 16 が 45m ミリ波宇宙電波望遠鏡である。



写真 16 45m ミリ波宇宙電波望遠鏡

写真 16 は野辺山太陽電波観測所と野辺山宇宙電波観測所の紹介のページをまたいで掲載されていた。

写真 17 がこのパンフレットの裏表紙である。



写真 17 1983 年版東京天文台パンフレット裏表紙

1982 年 3 月 1 日に野辺山宇宙電波観測所の開所式が挙行されている。それから 34 年、東京天文台は 1988 年には国立天文台へと改組転換し、天文学では世界をリードするまでに発展してきた。こういったパンフレットをアーカイブすることも大切なことだと思う。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp